

公刊にあたって

皆様のご協力のおかげで図説「わが国の慢性透析療法の現況（2007年12月31日現在）」（以下「現況」）を速報としてここに発行する運びとなりました。

最初に、本調査は全国の透析施設や透析従事者の方々の熱意に支えられ、多忙な日常診療のなか貴重な時間を割いてご協力頂いた皆様のお陰であることに感謝申し上げます。

本年も例年通り、日本透析医学会の非会員施設も含めた多くの施設のご協力を頂き、速報である図説「現況」の報告をさせて頂くことが出来ました。

また、本年は本図説発行後も、さらにデータの質を上げるべく、問い合わせをさせて頂きたいと考えています。より正確なデータを基に例年通り、さらに詳細なデータを加えCD-ROM版として年末に配布させて頂く予定です。

「現況」調査の回収状況、および新規項目についてご報告します。

「現況」調査は例年通り日本透析医学会施設会員施設に加え、地域協力委員の先生方などのご努力により、非会員施設、新規開設施設も対象施設として行われました。2007年末の対象施設は4,098施設で、前年より47施設増（1.16%増）となりました。締め切りは例年通り1月末とさせて頂きましたが、5月の連休直前まで地域協力委員の先生方や事務局から、FAXや電話などで可能な限り回収率を上げるべく努力を行いました。その結果、最終的に施設調査（シートⅠ）にご協力頂いた施設は4,050施設（98.83%）であり、昨年（98.37%）を上回る回収率を達成することが出来ました。また、施設調査（シートⅠ）と患者調査（シートⅡ～Ⅳ）の両方も3,886施設（94.83%）にご協力頂き、昨年（93.41%）より高い回収率を達成することが出来ました。

さらに回収媒体の比率は、FDや一部CD-Rによるご協力をお願いした甲斐も有り、施設調査・患者調査の両方にご協力いただいた施設のうち、電子媒体による回収が2,934施設（75.50%）と、昨年より大幅に増加しました。しかし時代の流れからUSBなどの新たな媒体のご希望も多く寄せられ、今後前向きに検討させて頂きたいと考えています。

2007年末調査では、昨年に続き透析導入時の病態調査、透析液水質管理状況調査、肝炎ウイルス調査、腎性貧血治療の現状調査を行わせて頂きました。また新たに大腿骨頸部骨折の実態調査を加えさせて頂きました。特に重要と考える透析導入時の病態調査は昨年と同様であり、さらに精度の高い結果が得られているものと考えています。本現況にはその一端を掲載させて頂くとともに、透析液水質調査、大腿骨頸部骨折の実態に加え、様々な観点から解析を行い、併せて掲載いたしました。

以上の様に掲載内容が多く、盛り沢山の内容になっています。また、締め切りから集計・解析までの時間的猶予が少なく、細かなミスが有る事も予想されますが、年末に配布する予定のCD-ROM版には、6月以降の問い合わせ結果を反映させたより正確なデータベースによる帳票や解析結果を掲載させて頂く予定です。この点ご了承の程、お願い申し上げます。年末のCD-ROM版発刊に向けて、より正確なデータを供すべく努力する決意です。

最後に、現在統計調査委員会が取り組んでいる事業についてご紹介させて頂きたいと思います。私は2006年6月から、統計調査委員会の第五代目の委員長にご指名頂きました。

昨年の本項で私は、高い回収率の維持・向上、より正確なデータの収拾、に加え、正確なデータに基づく解析システムの構築を公約させて頂きました。

前者に関しては、「地域協力委員会」の発足や統計調査委員会の努力などによって、「新規導入患者の病態調査」と言う極めて項目数の多い調査にもかかわらず、ほぼ従来の回収率を維持する事が出来ました。もちろんこれは、ひとえに調査にご協力頂いた各施設、および担当各位のご努力の賜と感謝致しています。

解析システムに関しては、(株)日本科学技術研修所と契約し、2004年末現在のデータを基に試行を行い、実現可能な事を確認致しました。

これに伴い、従来から会員諸氏あるいは透析医学会の各委員会から要望の有った様々な解析ニーズにも対応できる体制が、間もなく確立すると期待しています。

これに際し統計調査委員会では、会員などから公募研究を募り、長年に渡って積み重ねられてきた貴重なデータ（宝）の山を解析し、国内外に発信し、わが国の慢性透析医療の更なる向上、ひいては慢性透析患者の生命予後やQOLの改善に資したいと、統計調査委員会一同夢を募らせている所であります。

これが引いては、本統計調査の意義を高め、さらに質の高いデータ収集にも役立つものと期待しています。今後とも、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

社団法人 日本透析医学会 統計調査委員会
委員長 椿原 美治